

会報 峠 とうげ

河井継之助記念館 友の会会報  
第19号  
2016.03

編集・発行 河井継之助記念館  
新潟県長岡市長町1丁目1675-1  
〒940-0053  
Tel.0258-30-1525  
Fax.0258-30-1526  
頒布価：50円（送料別）

### 雪国長岡に生まれた先人をつみつめて

女優・エッセイスト 星野 知子



東京から関越トンネルを抜けると一面の雪景色。車中から「わあ、綺麗！」という歓声が上がると自慢したくなります。子ども頃は、家の一階は雪囲いの板張り、一日中真っ暗。雪ほげをしないと学校に行けず、「雪の無い所で暮らしたい」と故郷に背を向けていた気がします。高校卒業後上

けの気配を感じる感性は雪国の人ならではの。今は、「自分の根っこはここだ！」という感謝を持って生きています。

『なつちゃんの写真館』でデビューすると、記者の方に「ご出身は『峠』の長岡ですよ？」と訊かれるのですが『峠』を読んできて恥ずかしい思いでした。高校の資料館には河井継之助の大きな肖像画があり、常々「質実剛健」「常在戦場」の精神が唱えられていたのに…。長岡は戊辰戦争で歴史的建造物が残っていない分、歴史を学び、伝え遺そうとする人が多いと思います。雪の中でこそ、考えることが多くある、そんな気がします。

長岡にいた頃、杉本鉞子（つぎこ）のことは河井継之助より知りませんでした。二十歳前に『武士の娘』を読みました。難解で、その後二十年経って読んだときは最初の雪の描写で心掴まれました。雪国への郷愁、日本人の美德と誇り、異国の文化風習との融合。そして、気品ある美しい文章に感銘しました。それから全国に『武士の娘』を知って欲しいとNHK関係者に猛アピール。念願叶って昨年度ドキュメンタリードラマとしてテレビ放送されました。放送直後に

アマゾンで『武士の娘』の文庫本が在庫切れになったそうです。お陰様で視聴率も良く好評を得て再放送もされました。

私も『武士の娘』の解説本にと写真や図版をたくさん載せた『今を生きる武士の娘』鉞子へのファンレター』を出版しました。ありがたいことに、新潟県で特に売れています。

さて、『武士の娘』を調べるうちに興味湧いてきたのが河井継之助です。鉞子の父で長岡藩筆頭家老の稲垣平助は、継之助と対立して失脚しています。想像するに、戊辰戦争での平助と継之助の確執はさぞドラマチックだったことでしょう。今、密かに『武士の娘』のドラマ化を目指しています。もし実現すれば河井継之助は重要な登場人物になります。鉞子だけでなく魅力あふれる『長岡藩士たち』をぜひ紹介したいですね。

（今回の文章は十二月十九日の講演会の内容を、広報委員の渡辺千雅さんがまとめました。）

星野知子（ほしのともこ）プロフィール  
女優・エッセイスト。1980年にNHK連続テレビ小説「なつちゃんの写真館」で主演デビュー。その後映画・ドラマに多数出演。女優業だけでなく、多才多藝な女性として活躍。著書に『中越地震の復興を願って詩を綴った「ふる里」』（小学館）（印税の一部は復興のため使われる）など多数。

### 峠抄 とうげしりょう

晩秋十一月末のある日、NHKの連続テレビ小説「ごちそうさん」で共演された東出昌大さん・杏さんご夫妻が来館されました。かねてより新聞・メディアにて、お二人が「歴史がお好き」という話やうかがっており、歴史でもある杏さんは、好きな歴史上の人物として河井継之助を取り上げて下さっています。読書好きな東出さんも、自身が選ぶ「司馬遼太郎作品ベスト3」では『峠』がベストワンだと推薦されていました。

職員一同「いつかは河井継之助記念館にお出でいただけたらいいな」と期待していた中、突然ご来館いただきました。来館中のお客様もさることながら、私達職員も驚きと興奮で沸き立ちました。途中から森民夫市長も駆けつけて下さり、稲川明雄館長の解説を受けながら、熱心に館内をご覧になりました。一時間ほどの短い時間でしたが、楽しんでいただけましたでしょうか。  
（職員一同）

# 『峠』の越後長岡を歩く ⑬ 番外編

連載

司馬遼太郎の『峠』に描かれている「越後長岡」の風景を現在に訪ねるシリーズ。今回は番外編として新潟市西蒲区峰岡エリアを歩いてみました。

●『峠』上巻 新潮文庫500ページより

越後長岡侯 七万四千石

信濃小諸侯 二万五千石

越後三根山侯 一万二千石

丹後田辺侯 三万五千石

常陸笠岡侯 八万石

みな家紋は三ツ葉柏(三ツ柏)であり、旗じるしはハシゴである。

小泉純一郎元首相の所信表明演説で再度注目されるようになった「米百俵」の話。その故事に登場する三根山が今回の舞台です。明治三年(一八七〇)、三根山藩は、北越戊辰戦争に敗れて極度に困窮していた長岡藩に対して、見舞い米として米百俵を贈りました。この故事を山本有三が戯曲「米百俵」として世におくり出したことで、「米百俵」ということばが一般に知れ渡るようになりました。

そもそも長岡藩には、四つの支藩があり、その一つが越後三根山藩(一万二千石)です。三根山藩は、初代長岡藩主・牧野忠成が四男定成に六千石を与えて、蒲原郡三根山に封じ、牧野家が

ら分家したことに始まります。以後廃藩に至るまで十一代にわたって牧野氏がこの地を治めました。歴代当主は本家の長岡藩牧野家を支えながらも立藩の意思があり、十一代忠泰の代になって内高五千石を加えて二万一千石の大名となりました。明治三年(一八七〇)丹後国の峰山藩と同音であることから峰岡藩と改称し、同四年七月十四日廃藩置県により峰岡県となります。

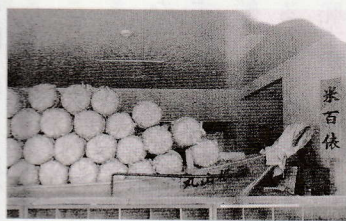
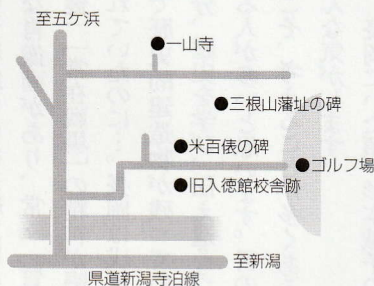
かつての三根山藩陣屋は、現在公園として整備されています。敷地内には、三根山藩址の碑をはじめ、米百俵の碑、入徳館藩校の大教授となった新保正与の碑などがあります。なお入徳館とは、十一代忠泰が開校し名付けた藩校の校名です。藩校は後に入徳館小学校、廃校後は入徳館野外研修場と名前を変えて、現在に至っています。施設内には、米百俵を積んだ三根山丸の再現模型が置かれています。

陣屋からは近い一山寺は、三

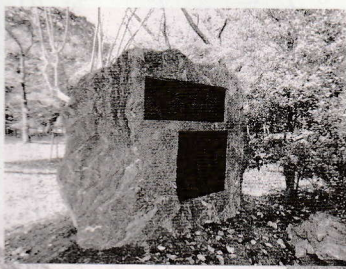
根山藩主の菩提所です。長岡藩牧野家と同じ「三ツ柏」が掲げられた寺院です。二代藩主忠清が養父・定成を供養するため本堂を再建、寺号を一山寺と改称し、三根山藩牧野家の永代の菩提所としました。境内には歴代藩主の墓があります。

新潟市西蒲区峰岡は、実は長岡とつながりの深い場所であり、また小林虎三郎とも縁の深い場所でもあったのです。(高柳)

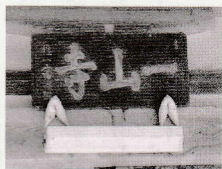
※参考文献「角川日本地名辞典 角川書店」



入徳館野外研修場



米百俵の碑



一山寺扁額



新保正与の碑



歴代藩主の墓



三根山神社



一山寺と三ツ柏



三根山藩址の碑

# 来館者10万人達成!!



10万人目の祝福を受ける総理さんと悠仁くん(写真中央)

数の推移を辿りたいと思う。

記念館には様々な人が訪れる。過去にはタイから観光で来たという女性が七万三千人目の来館者となっている。つい先日台湾から来たという青年二人がやってきた。来館せずとも継之助に興味があるという手紙が中国本土から届くなど、継之助の魅力のな人となりは国内だけでは留まらない。また、継之助が師事した

山田方谷の出身

平成二十八年一月十八日、記念館に子供連れの女性が訪れた。開館以来、実に十万人目となる来館者だ。

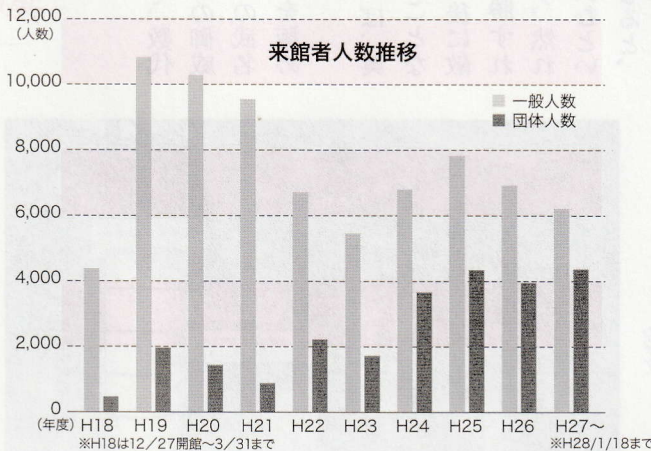
この日、お昼前に来館されたのは市内在住の鈴木絵理さん、そして絵理さんの腕にだかれた息子さんの悠仁(ゆうと)君。当日は森民夫市長や友の会の下田邦夫会長、マスコミも駆け付けるなど、賑やかなセレモニーとなった。

記念館では千人単位で訪れた方に記念品を贈呈し、記念撮影を行っている。十万人という節目を迎えたこともあり、今までの記念品を贈呈した方々、そして来館者

地である岡山県から来られる方も少なくな。九万人目、九万二千九千人目に来館された方々がそうであるし、芳名帳を見ても岡山からの来館者がいる。継之助と何らかの因縁のある地から来館する方はとても多い。

次に開館以来の来館者数の推移を辿りたいと思う。

来館者は平成十九年が最も多く、それ以降は下降気味にある。し



## 遠方からの客人

インタビュー⑰ 雪深い長岡へ、よいこそ



秋間佐治子さん

平成28年1月28日  
風呂」を楽しみに湯沢にきました。来る前に、インターネットで調べたら、「継之助」が「長岡」の人だと知りました。昔、司馬遼太郎の本は読んでいたのですが、「峠」の事は詳しくは思いません。館内を見ても勉強になりました。

### ●継之助の印象は

自分を責め、改革に着手し武士らしく最後まで生きた方だと思います。帰ったら「峠」を読みたいと思います。幕末は好きで坂本龍馬や大河ドラマ「花燃ゆ」を観ていました。中村勘三郎さんの「駆け抜けた蒼龍」も観た事があります。これから長岡郷土史料館と山本五十六記念館も足を運びたいと思っています。

「笑っている事」は良いことよ、「笑顔が一番」終始にこやかに話され、和やかな雰囲気になり楽しいインタビューでした。

(河出)

## 継之助の風景



JR只見線「縁結び列車」

昨年9月からJR只見線(只見駅一小出間)では、沿線の代表的な観光資源をデザインしたラッピング車両が運行されています。赤色の車両には一筆書きで、河井継之助やブナ、雪祭り花火などが描かれています。また小出「こい(恋)で」と会津「あい(愛)づ」を結ぶ列車にちなんで、縁結び列車として親しんでほしいという願いを込めてデザインされたそうです。(平成29年9月まで運行予定)

●ご来館のきっかけは  
観光と歴史が好きで、たまたま友達に宿泊券が当たり二人で「雪見の露天

(黒田)

# 河井継之助はどういう人物？

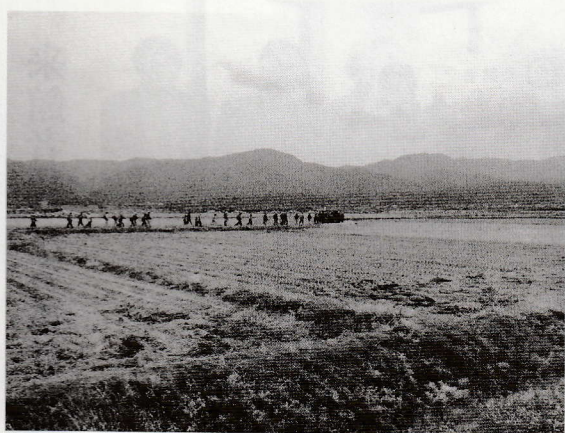
その⑬ 八町沖渡渉戦と口上書

連載

慶応四年七月二十四日（新暦では九月十日）夜半から翌二十五日にかけて、長岡藩兵六百九十余名が長岡城東北にあった八町沖を強行に渡河して、長岡城下に奇襲をかけた。それは故城奪還の乾坤一擲の作戦だった。夜襲にあたって、藩兵一同に読み聞かせた口上書がある。

なぜ分け目の軍と云へば、奥州の敵も、今に撻々敷ことなく、東が大勝すれば、越後に敵が居られず、越後が大勝すれば、奥羽に敵は居られず、然れば、敵もどこまで引て済むといふ訳にも参らず、そうなる

と、此の形勢が変じ、元々、諸大名が義理でする仕事でもないし、軍ずきがした仕事でもなく、只、暴威に却やかされて、いやでも難義でも、一寸ずりに延したは、愚かの心底から、義も忘れて、左様の事するけれど、心に誰でも悪いといふこと知らぬ者無く、高田や与板が快いといふ事もなく、気楽でもあるまい、少し模様が変われば、天下の諸侯が変心するから、そりや敵も大変で、天下を取ろう

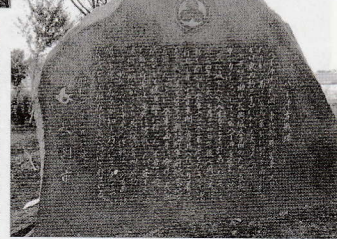


現在の八丁沖

としてした仕事は空敷なり、そうなる



東軍陣地の西照寺、台場跡と戦病死者の墓



八丁沖古戦場の碑

梯子橋のレリーフ



ら、身を捨ててこそ、浮む瀬もあれと申しますれば、能々、覚悟を極めて大功を立てませう。一昨夜より風も強く、此一戦を大切に思ひ、皆様と御一心になって、此度は是非とも大勝を致し度いと、心に浮みし丈けを口上にて、申上様と書きましが、届ぬ事もあるけれども、篤と御考被下ませう。

（旧かなづかいを使用）

この口語文の口上書は、進軍手配書とともに、各隊に配られ、藩兵の重たつたものが読み、配下の者共に聞かせたという。継之助は寡兵で城下に飛び込むからには、日頃からの改革の実行のように、各々が役割りを果たすことを要求していた。

面白いことに、長岡城の奪還が北越戊辰戦争最大の切り目だと捉えていて、継之助の戦略眼が反映しているといえる。その為には、この戦いを最重要なものとして河井継之助は位置づけ、藩兵一同に、武士の覚悟を説いたものであった。

身を捨ててこそ浮かぶ瀬もあるといふことわざの通り、捨身の戦いに打ってでたのが八町沖の渡河戦だった。

（福川）

# 「塵壺」を読む

17 連載

四国では金比羅宮だけでなく、少し遠いが善通寺にも立ち寄っている。善通寺は、真言宗の開祖・空海の先祖による創建（空海は現在の香川県善通寺市の出身）とされ、和歌山県の高野山、京都府の東寺と共に弘法大師三大霊場に数えられる。ただ塵壺につづられた感想によると、名前の評判ほど期待できなかったらしい。

継之助は四国を離れるべく、多度津の船宿で昼飯をすませると、すぐさま船に入るよう指図された。しかし実際船が出港したのは夜だったようだ。乗船して待っている間、乗合いの博打の音がうるさかった、とある。途中、潮と向かい風のため「さなぎと云う島」に船を停泊したとつづられている。これは佐柳島のこと、近年、猫の島として有名になっている。継之助のいうとおり、どこにいても四方が島のなかにある場所、「夜は好く風景は愛すべし」とあるから海上からながめた星空が美しかったのだろうか。二十一日、明け方になってようやく船が出て佐柳島を離れた。

継之助は、午後四時ごろの浦に到着し、上陸して方々を散策

した。鞆の浦はJR福山駅から南へ十四キロ、瀬戸内海沿岸のほぼ中央に位置する。古くから潮待ちの港として栄え、万葉集にも詠まれている。江戸時代は北前船の寄港地として国内外との交易で栄え、歴史に名高い旧跡や遺構も多く残されている。最近では、宮崎駿監督が『崖の上のポニョ』の構想を練った地として一躍有名になり、映画・テレビドラマ等、映像作品のロケ地となるなど注目を集めている。

またこの場所は江戸時代、海外からの朝鮮通信使の寄港地として度々使用された。その際、沿岸部にある福禅寺が迎賓館として使われている。元禄年間（二六九〇年頃）、現在の本堂と隣接する客殿「対潮楼」が建てられ、日本の漢学者や書家らとの交流の場となった。正徳元年（一七二一）

第八回通信使が訪れたとき、従事官の李邦彦は、宿泊した福禅寺から見た鞆の浦の景色を「日東第一形勝」（朝鮮より東の世界で一番風光明媚な場所の意）と称した。この文を額にしたものが福禅寺対潮楼内に掲げられている。塵壺ではこの景色を「前に泉

水山とて面白き山あり、この山の左右より港へ入る、実に庭のごとく、この楼は絶景なり」とつづる。実は現在の対潮楼の建物からも、当時と同じ風景を目のあたりに出来る。座敷の一角は全て開け放たれ、波穏やかな瀬戸の海に仙酔島や弁天島がぼっかりと浮かぶ姿。柱を額縁に見立てて風景を見ると、まるで絵画をみるような景色が広がっている。

さらに継之助は、祇園の社へ登って港の風景を眼下に見たという。これは鞆祇園宮の別称ともなう。「祇園さん」の通称がある沼前に「前神社」のことであろう。日記にあるとおり、眼下の港を見下ろせる高台に位置し、海上安全を願う地元の神社である。

話はそれるが、幕末の鞆の浦で起こった事件に「いろは丸沈没事件」がある。これは、坂本龍馬が海援隊を結成してから程なくして発生した。慶応三年（一八六七）四月二十三日晩、鞆の浦沖にて、伊予大洲藩籍で海援隊が運用する蒸気船「いろは丸」が、紀州藩船「明光丸」と衝突した。この明光丸がはるかに大型であったため、いろは丸は大きく損傷、沈没してしまった。今も船は宇治島沖の海底に沈んでいるといわれて

いる。龍馬は万国公法を基に紀州藩側の過失を厳しく追及、まずは鞆の浦で紀州藩側と徹底対決した。この時、海援隊と紀州藩の交渉の場となったのが、先ほど登場した福禅寺の対潮楼である。最終的には長崎に舞台を移して論戦が行われた。後藤象二郎ら土佐藩も支援した結果、薩摩藩士・五代友厚の調停によって、最終的に紀州藩側が賠償することになった。ちなみに海援隊のメンバーには長岡藩の白峰駿馬が所属している。

江戸時代末期築の妻を見せて建つ二階建の土蔵があり、いろは丸展示館として、いろは丸と坂本龍馬に関する展示施設となっている。また、鞆港へ仙酔島を結ぶ市営渡船にて当船を再現した「平成いろは丸」が運行されている。四国に渡る人と交易でにぎわう玉島・丸亀・多度津。景勝であり、歴史との接点も多い鞆の浦。瀬戸内海の豊かな港町の姿目の当たりにした継之助は、長岡の未来の姿をこの地に見たのかもしれない。（高柳）

※参考文献「角川日本地名辞典」角川書店



福禅寺対潮楼



朝鮮通信使の服装



対潮楼から弁天島、仙酔島を望む

## 長岡藩士殉節慰霊祭

今年も会津若松市の本光寺において長岡藩士殉節慰霊祭が営まれました。これは戊辰戦争時、会津に援軍として駆けつけ、敗れて斬首された山本帯刀率いる長岡藩士の慰霊のために毎年九月九日、会津の方々によって執り行われているものです。慰霊祭では顕彰会の福島慎二副会長の挨拶に続き、小沼慶八会長より、継之助の終焉の様子が語られ、その精

神を引き継いでいきたいと述べられました。その後、ほど近い長岡藩士殉節の碑まで足を運び花をたむけました。

当日は生憎の荒天。雨の降りしきる中、本堂の参道では勇壮な剣舞も披露されました。それは力強い吟詠と相まって、参列者の胸に訴えかけるものでした。先人への思いに馳せ、歴史を学び伝えることの大切さを痛感するひとときとなりました。

(金澤)



長岡藩士殉節之碑

戊辰戦争で戦死した山本帯刀隊長以下四十四名を弔うもの。長岡城落城後、彼らは八十里峠を越えて会津に入り奮戦するが、早朝の濃霧の中、飯寺河原で新政府軍に包囲され戦死した。明治になり村民が供養の碑を建てて霊を弔い、昭和に入ってから会津史談会が新たに建てたのが現在の殉節碑である。



慰霊の剣舞

慰霊祭の様子

## 河井継之助没後百四十八年祭法要

十月四日、河井継之助の百四十八年祭法要が菩提寺の栄涼寺にて、秋晴れのなか今年も当会の主催で営まれました。

祭壇には寺院が所有する継之助の肖像画が掲げられ、この日は牧野家十七代当主、牧野忠昌様とご家族、継之助の河井家の七代目当主、河井正安様



お焼香の様子



継之助の墓前で

(昨年八月に九十二歳で逝去)の夫人惠美様、最後の地である只見町の関係者ら、県内外から約五十名が参列、読経があげられるなか静かに焼香をされました。友の会の下田会長は、「才幹を持つて改革し、豊かで美しい地方創生の国家を作り上げようとしたが、北越戊辰戦争を戦い、只見の塩沢で無念の最期を遂げた。長岡藩士の英霊、同時に犠牲となった非戦闘員のご冥福を祈る。」と祭文を読み上げられました。

その後、遺族を代表して河井惠美様が「近年はこうして多くの方に慕われて、このような祭事を行っていただき感謝しています。」と話されました。その後、参列者全員で墓前に移動し手を合わせ、継之助を偲びました。また法要後「市民の集い」の為会場を移動し和やかに行われました。

同日、来館いただいた方にはおもてなしとして、記念館ではガイドボランティアによる茶会が催されました。お手前を頂いた方々は、館内から面影の庭を眺めつつ、この季節に亡くなった継之助の姿に想いを馳せていました。

(島岡)

## 記念館日誌 某月某日

小雨の降る冬のある日、男性お二人が記念館にいらつしやいました。そのお一人が、受付にて「こんな名前なんです。」と免許証を見せてくださいました。そこには「継之助」の文字が。由来をお聞きすると、ご両親が河井継之助を尊敬していて、「継之助」と名付けたそうです。そんな事情もあり、自分の名前の由来となった人物の記念館に一度訪れてみたかった、とおっしゃっていました。

館内も熱心に見ておられ、最後に「司馬さんの『峠』はこれから読んでみたいと思っています」とのこと。このあと新潟市へ行かれるそうで、新幹線の時間が迫っており「もつとゆっくり見なかった」と名残惜しそうにしておられました。ぜひ再度ご来館いただければ幸いです。お待ちしております。

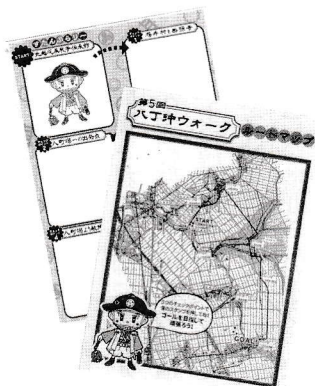
(高柳)



## 第五回八丁沖ウォーク

十月十日第五回八丁沖ウォークが開催されました。当日は明け方激しい雷雨となり実施が危ぶまれましたが、参加者の皆さんにお集まり頂く時間には青空も覗き、絶好の日となりました。雨上がりの八丁沖では、まるで歓迎しているかのように道端の草木もキラキラと輝いていたのが印象的でした。

今年度は前年までのコースと一部変更され、新たにチェックポイントを設けスタンプラリーでもお楽しみ頂くウォークとなりました。また今回は十七代当主牧野忠昌様も初めて皆さんとコースを歩かれ、楽しんでおられる様子でした。そして、渡河後に頂いた「はざかけ米」のおにぎりは、ふんわりと握られ、疲れたからだに浸み渡る美味しさでした。ご協力くださった皆様、ありがとうございました。(柴田)



八丁沖スタンプラリーシート

## 八丁沖ウォークに参加して — 会員の声

●八丁沖ウォークに参加して

朝の雨も上がり日が射して、最高のウォーキング日和。参加者は過去最高の百四十名と発表され、小学生を含めた、家族での参加者も多く見られて、河井継之助もチームに成って来たかとも思わせる様子でした。今年も昨年のコースと違い、北越戦争の両軍の宿舎となった西照寺や、八丁淵に入る出発点など見所を多くしたコースで、またスタンプラリーで基点毎にスタンプ場を配した新しい試みに加え、参加者の好評を博していた。今は見渡す限りの平らな田園風景、江戸時代、葦で囲まれた広大な沼があったとは感じられない場所。ここで六百余名の長岡藩士が、夜陰に乗じて六時間かけて渡河し、長岡城奪還作戦を成功させた。我々が説明を受けながら、だから歩いて一時間弱で八丁沖古戦場パークに到着。ただ今回、地元新組の人達の史跡を守って行くという姿勢の強さが至る所で感じられ、感謝と同時に尊敬しました。

— 高橋邦夫 (長岡市)

●赤蜻蛉は御霊でしょうか？考えすぎ

平成二十七年十月十日爽やかな晴天、「赤蜻蛉の歓迎」を受けて八丁沖ウォークに初参加です。東山から新政府軍が見張暗中、沼地を延よう必死に進む姿、長岡城奪還の志をひとつに己との戦いでもありません。と考えながら当時も配られた餅を沼地では食べなかつたでしょうに、私は「バクリ」その美味しさに癒され、穏やかなひと時をありがたくも思いました。今日の新聞には「過去の戦争」現代の戦いや争いの記事が絶えず残念です。「常在戦場」の心構えと自然災害の備えさえあれば良い「平和」を願う御霊でしょうか。

— 石坂息皇 (長岡市)

●秋晴れの「第五回八丁沖ウォーク」

司馬遼太郎の「峠」を読んでいる自分がいる。下巻の「八丁沖」という章でグッと来た。この場所は長岡城の東を守る自然の要塞で誰も通れない四キロに及び大沼沢だったそうである。約六百九十名の藩士が城奪回のためなんと、この沼を歩いたのだ。全巻読み終えてなぜかしら目頭が熱くなった。かつて継之助さんが二度も訪れた備中松山藩の山田方谷の里で生まれた小生は、今長岡にいる奇縁に身震いした。翌日インターネットで「八丁沖」を調べていたら、第五回八丁沖ウォークの文字が飛び込んできた。これは参加しないわけにはいかず!!と思ひ、すぐ申し込みをした。

さて、当日は未明に雷と雨音。これは、やはりすんなりとはいかないぞと危惧したのだが、出かけるころには小雨になり会場に着くと青空が広がって



出陣式の様子

いた。エイエイオーの掛け声とともに約百三十人の武者が北越戊辰戦争伝承館を背にし、城奪還のスタートを切った。晴れ渡った秋の日。稲刈りを終えたばかりのゆかりの地をゆくり歩くことができた。今は沼地はないが、当

時を偲んで感無量だった。聞けば今回で五回目というこの企画。準備もさることながら当日も本陣営に付き添っていただいたスタッフの方々、ありがとうございました。ごさいます。

— 藤 尚 (全国は岡山県高梁市)

## 会員の声

### 目

### 「会員の声」大募集!

●心に響く星野知子さんの熱い郷土愛 昭和四十四年当時の東京、出身は長岡だと言つと「伊豆長岡?」と聞かれることもしばしば。そんな東京のと真ん中で無名に近い河井継之助と長岡を知らしめた冊「司馬遼太郎著「峠」に出会ったのです。激震が全身を突き抜けたのです。この衝撃の出会いが、郷土長岡への想いに至り今日、私が河井継之助記念館で継之助の勉強会のご縁を頂いている原点なのです。昨年十一月、河井継之助記念館、開館九周年記念講演会は地元長岡市出身の女優星野知子さんを講師にお迎えしました。「長岡を知りたい、学ばねば...」と。並々ならぬ郷土長岡への熱い想いが記念講演会「武士の娘・杉本鉦子、

そして河井継之助」に至ったのでしよう。会場を埋め尽くした約六百人の市民らの心にも親しみを持って響いたのではないのでしょうか。学ぶこと知ることとは喜びの魂を揺さぶります。ひょんな事から私の高祖母が文政十年(一八二七)生まれだと判明。継之助と同年であることに愉快千万です。自分だけの密やかな小さな歴史の切れ端。そんな切れ端に出会う喜びもまた郷土史の楽しい散歩道なのです。折々の散歩道から見えてくる先人達に想いを馳せると星野知子さんの熱い想いが重なります。何としても郷土長岡をNHK大河ドラマにこそ星野知子さんへ長岡から感謝とエネルギーを送ります。

— 和田良栄 (長岡市)

### ●記念館オリジナルポストカード販売中!

(5枚組・パッケージ付300円) 郵送も承ります。



## おしらせばん

たくしろう

●今泉鐸次郎著『河井継之助傳』を読む会 第2・4月曜日 午後1時~3時

●楽しい詩吟教室 第1・3月曜日 午前10時~11時30分

### ●各講座実施中!

お気軽にお問合せください。

●開館九周年記念講演会報告

十二月十九日、開館記念講演会が開催された。講師に星野知子さんをお迎えした今回の講演は『武士の娘・杉本鉞子、そして河井継之助』長岡先人への想い」と題し、星野さんが「うわあ、たくさんの方が……」と驚嘆する程の聴講者が訪れ、その数六〇〇以上となり、満員御礼となった。



講演される星野知子さん

序盤は長岡の気候について、初雪が降ったそうですね、と感慨深げに話された。新幹線で長岡に来る途中、関越トンネルを抜け、そこには雪山があった。それを見た車内の子供がきれいと言ったのが聞こえ、「そうだろう、きれいだろう」と長岡人として誇らしくなつたという。

そして中盤、いよいよ鉞子やその父・平助、そして継之助の話に入る。

長岡の風土で培われたもので世に出た人、というのが星野さんの継之助評である。長岡の風土と

は何だろうか。星野さんは自身の母校である長岡高校の『質実剛健』、そして長岡藩の精神である『常在戦場』という言葉にそれを見出している。「こういう言葉と精神で成り立っている町なのだ」と感じていました」

そして話は鉞子に移る。鉞子の著書、『武士の娘』の冒頭は越後の雪景色について書かれている。ニューヨークに移住していた鉞子が、もう帰れないかもしれないと思ひ、長岡のことを思ひ出しながら書いている。一年のうち、四ヶ月は雪に閉ざされる長岡だ。星野さんは、自身が四十歳を過ぎて改めてこれを読み直したとき、鉞子が越後の雪景色を美しいと思つた気持ちがかつたという。武士の娘は、鉞子が五十歳を過ぎた後に書かれていて、アメリカ人に日本人の心情を伝えたい、その時に鉞子のバックボーンになっているのが長岡なのだ。

鉞子の父は稲垣平助という。戊辰で「腰抜け平助」と呼ばれ、稲垣家は肩身が狭い思いをしていた。鉞子は、著書の中

で父のことになると感情的になつており、平助は鉞子の相談役であり、色々なことを教えてくれる一番心許せる相手で、良い父として書かれている。平助は稲垣家の家臣が金を出しあい、稲垣家の家を建てようとするが、駄目になつてしまい、失意のうちに亡くなつている。

戊辰の前後、継之助は台頭するが、反対に失脚していくのが平助だ。二人は相当確執があつたのは、と星野さんは推測している。稲垣家は牧野家に伴い、長岡に

来ている。長岡城下に住む平助に対し、継之助は堀の外に住み、自

分の力で頭角を現している。鉞子に入り込むからこそ、星野さんの中では継之助はどちらかと言うと悪役なのだそう。

終盤は星野さん自身も出演する番組、『鉞子とフロッレンス』について語つた。視聴率も良く、「こんな人が日本にいるなんて知らなかった」という声が多かつた。

長岡の核になるものはこれだ、というものがお見せできたという。最後に「とても誇れるものが長岡には沢山ある。色々な人間臭いものを、ぐつと出していただけたら嬉しいです」と締めくくり、講演は終了となった。(河出)

河井継之助記念館 友の会について

会員の交流や情報交換を通して継之助について学び親しみ、記念館を応援する会です。

●会員数/正会員:520名/協賛会員:48名(2/29現在)

●特典/①入会時に徽章贈呈 ②友の会会報「峠」配布 ③交流研修旅行の案内・参加 ④イベント案内・参加

会員募集中

●入会手続き(入会金千円が必要となります)

- ①申込書に入会金と会費を添えて、事務局へ持参。
②申込書を事務局へ送り(郵送、FAX)、入会金と会費は銀行振込または郵便振込で納入。(手数料は本人負担となります)

●会費 ※会計年度は3月31日まで

- ・入会金/千円(新規入会時のみ)
・年会費/①正会員/ (ア)小中学生:500円 (イ)高校生以上:2千円
②協賛会員/一口5千円(法人の他、個人でも可)

●口座について

- ・加入者名/ 河井継之助記念館友の会
・口座番号/ 郵便局 00560-9-96432
長岡信用金庫本店営業部 普1032829
北越銀行本店 普1764663
大光銀行本店 普3011256
第四銀行長岡営業部 普1560562

●友の会事務局/河井継之助記念館
友の会ホームページアドレス http://tsuginosuke.net/

新入会員ご紹介

(平成27年9月1日~平成28年2月29日現在)

Table with 4 columns: Name, Address, Name, Address. Lists new members from various prefectures like Fukushima, Niigata, and Chiba.

編集後記

●幕末の英傑として近年全国的にも広く認知、評価されている河井継之助。ありがたいことに今年度の来館者数も昨年度をすでに上回り多くの著名人にもお越しいただきました。年の暮れが近づいたある日、当館に通のエアメールが届きました。送り主は中国福建省の二十一歳の方。陽明学に関する書籍から継之助について初めて知り理解するようになったそう、継之助に関する資料を送ってほしいとのことでした。丁寧な文面からは日本の歴史、文化に大きな興味を持たれてる様子がかがいがい知れました。越後の国から世界を見据えていた河井継之助。百五十年の時を経た現在、外国の方から関心を持たれていることを初めて知り、嬉しく感じたのでした。(金澤)

- 編集人: 稲川明雄 高柳吟音 河出知美
柴田三枝子 黒田清江
島岡真由美 金澤奈生子
広報委員: 猪本南八 渡邊静江 駒形豊
関口トシ子 高木春夫 森山建之
鈴木正行 羽賀龍介 廣井晃
堀口晴夫 山村雅隆 脇屋雄介
渡辺千雅
構成: 月刊マイスキップ編集部
印刷: 高遠印刷株式会社